

編集後記

<城 所 仩>

今回は消化管悪性腫瘍のなかで大変頻度が少ない悪性リンパ腫をとりあげるようになった。この疾患は剖検例をもととして病理の面からは、かなりまとまった仕事があるが、臨床面から多数例を集めてその臨床像を浮き彫りにした業績は少ない。今回比較的集中的に、今日の進歩した診断技術を駆使して細かい検討のできた胃悪性リンパ腫の報告のみならず、その他の腸管の悪性リンパ腫までを含めてその臨床的な問題点を提起していただけた点大変読者にとって有益なものが多いと信じる。尚読んでいただければわかることであるが、その病像の複雑な現われかたや急速に短期間に肉眼像の変化する点、さらにまた悪性リンパ腫の予後についても従来比較的良いとされていたものの、癌とそれほど差のあるものでなさそうである等の今後の検討に待つべき幾つかの問題点が示されたことも大変興味あるものであろう。

これらの比較的稀な疾患について、その全貌を明らかにするためには、早期胃癌の多数例の集積が胃癌の発生および発育の問題に大きく役立ったのと同じく、早期消化管悪性リンパ腫を多数発見し、その詳細な検討が望まれる。胃診断技術の進歩は胃悪性リンパ腫の発見に大きく役立って来たことは本誌を見れば明らかであるが、これをさらに他の消化管にも期待したい。ことに小腸、大腸の悪性リンパ腫については今後のこれら消化管の診断技術の進歩に負うところが大きいものと思われる。

<編集> 早期胃癌研究会